

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270800289		
法人名	医療法人社団 荘志会		
事業所名	グループホームゆうゆう		
所在地	長崎県松浦市御厨町里免397-10		
自己評価作成日	令和5年9月30日	評価結果市町村受理日	令和6年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で明るく楽しく安心して暮らしが送れるよう取り組んでいる。母体が医院の為安心して医療が受けられ、系列には介護老人保健施設、介護老人福祉施設があり、契約終了後にも安心して頂ける。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは松浦鉄道御厨駅から程近い幹線道路沿いの場所にあり、家族や訪問者にとっても交通の利便性が良い。家族アンケート結果では、訪問しやすい、話しやすいといった声が挙がるなど入居者と職員、及び職員同士の信頼関係が構築されていることが窺える。母体は医療法人で、ホームに隣接して介護老人保健施設、特別養護老人ホーム等があり、入居者や家族にとって医療と連携した支援のほか、退所時の受入れ対応等、安心感のあるホームと言える。松浦市在宅医療・介護連絡協議会が在宅医療における多職種連携と人生会議についての啓発用動画「モコちゃんに看取られる」を製作し、その動画に母体病院の院長が出演する等、積極的に地域の関係機関と連携している。職員には心理士によるカウンセリングを導入し職場のメンタルヘルスケアを講じている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうゆう)	実践状況(ユニット名: うきうき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアーの見える所に掲示し共有し実践に努めている	見える所に理念や基本方針を掲示し、楽しく生活出来るよう支援に努めている。	『ゆったり、楽しく、ありのままに』の理念を念頭に、職員は家庭的な雰囲気大切に支援に努めている。入居者に1年の目標を書初めた書をリビングに掲示し、職員がそれぞれの目標達成に向け入居者本人に合わせた支援を行う事で実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で日常の交流はできていない。	コロナ禍で日常的に交流はできていない。	コロナが第5類に移行したことに伴い、地域主催の生き生きサロンへの参加や、公民館行事である作品展に出展するなどのほか、地域の催し(おくんち)で龍踊がホームを訪れる等、地域交流を再開している。今後、近隣中学校の職場体験学習も受け入れる予定である。近隣住民からは栄養補助食品、紙オムツなどの提供を受けることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	医院・薬局・支所や運営推進会議に出席して頂いている地域の方に回覧板で配布してもらい、理解に向けて努めている。	年に4回おたよりを作成し地域の方へ配布し、ホームの様子がわかり理解してもらえるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で外部との交流ができなかったが、質問や意見等を頂きお答えし向上に努めている。	ホーム内での会議が多かったが数回地区の行事に参加し報告・話し合いを行い意見をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、町内会役員、入居者・家族代表、他のグループホーム職員、行政担当者、ホーム職員で構成されている。会議録を全家族へ郵送しており、求人情報を知らせて就職に繋がったり、また、他ホームの職員より誤薬への対応法について助言を受ける等、有意義な会議が行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうゆう)	実践状況(ユニット名: うきうき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者・福祉事務所の担当者様と時々連絡をし協力関係を築くよう努めている。	運営推進会議様やたよりで協力関係を築くよう努めている。	管理者が各種の関係書類を持参して市健康保険課窓口を訪問しホームの実情を伝えたり必要な助言等を得ている。市生活保護課職員が定期的に訪問し、該当する入居者の情報を伝えている。ホーム便りを発行し、市役所窓口等にも置いている。地域包括支援センターとも相談対応等連携し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に話し合いをし理解し、拘束しないケアに取り組んでいる。その人の動きの介助の為コールマットを使用している。夜間は玄関を施錠している。	身体拘束委員会で話し合いしたことを踏まえ具体的な行為を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	管理者、介護支援専門員、介護職員を構成員とし定期的に身体拘束廃止委員会を開催している。当委員会議事録は全職員へ回覧している。入居者の夜間の転倒防止等を目的としたセンサー使用にあたって介護計画に記載すると共にその理由を説明し家族より同意を得ている。	虐待の防止のための措置に関する事項に関し、令和6年3月31日までに運営規程に定めることが求められているため、今後、運営規程に「虐待の防止のための措置に関する事項」を明記し家族や職員に周知し取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の申し送り話し、身体拘束委員会で対応を検討している。注意を払い防止に努めている。	身体への虐待は無いが、言葉による虐待に注意して見過ごされる事が無いよう防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍で学べていない。これから研修等に参加し活動・支援していきたい。	後見制度を必要とされる方には活用出来るよう支援に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうゆう)	実践状況(ユニット名: うきうき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に丁寧に説明し理解・納得して頂いている。	入所前に説明し納得された上で入所されている。十分な説明を行い理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で電話での意見・要望をお聞きすることが多い、毎月ご家族様へは近況を報告している。意見・要望があればすぐに職員間で話し合い運営に反映している。	面会、電話などでお話しする機会がある時など意見・要望が無いからお尋ねしている。意見・要望は共有し反映させている。	コロナが第5類に移行したことに伴い、居室で10分程度家族との面会が可能となり、入居者毎の担当者が中心となり家族より意見を聴取している。聴取した内容で入居者支援に必要な情報は送りノート、個人記録に残し全職員で共有している。聴覚機能に低下がみられる入居者には筆談で意見を汲み取り、補聴器の着脱等も支援している。	入居時における重要事項の説明として、第三者(外部)評価の受審状況についても家族等に説明することが求められており、重要事項説明書において第三者(外部)評価の受審状況が分かるように、第三者(外部)評価実施の有無、評価実施日、評価機関名、評価結果の開示状況を記載するとともに、重要事項説明時には受審に合わせて家族へアンケートを実施し、家族の意見をくみ取る機会とする旨説明することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で意見を出したり、業務改善委員会をし、反映に繋げている。	職員会議の中で意見や提案を聞き反映している。	業務改善委員会を隔月に開催している。ユニット間で職員交替の検討、玄関入口インターホンとチャイム音が似ているため家族来所の判断に困る等、職員意見に対応し、音色を変更するなど具体的に取り組んでいる。欠席した職員には委員会の記録を回覧し、周知している。職員の個人的な相談事や、心配事なども気軽に管理者へ相談ができており、職員間のチームワークを高めている。	職場環境においてより円滑なコミュニケーションが図れるよう、ハラスメントに関する研修などを通して理解を深めると共にハラスメントを未然に防止する為の基本方針、マニュアルの作成、相談対応窓口の設置等、今後、具体的に取り組むことを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当等は有るが、人員不足である。働きやすい環境に努めている。	働きやすい職場を常に考えて頂き、資格手当など向上心が持てるようにされている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうゆう)	実践状況(ユニット名: うきうき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は個人の能力を高める為にも、働きながら同時に研修でもトレーニングする事を勧めている。コロナ禍でリモートによる研修が増え系列で一緒に参加できる場所を作ってほしい。介護福祉士の資格取得は増えた。	近くでの研修がなくコロナ禍でもあり参加できていない。介護福祉士の資格取得した人もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地域のグループホームの運営推進会議に出席したり、来ていただき活動を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。	他のホームとの交流する機会がある。他の運営推進会議に参加し参考になっている事もある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時ご家族様よりお話を伺いサービスを行いながら、傾聴することが大切であり、ご本人の希望や思いにできる限り寄り添い、理解し安心できる関係を築くよう努めている。	入所後は、声かけを多くし、安心を確保するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方も本人同様不安や分からない事も多く有ると思うので、良くお聞きし安心できる関係を築くよう努めている。	ご家族等がどうしてほしいのかお話を聞きし、要望等に耳を傾け信頼関係が出来るよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうゆう)	実践状況(ユニット名: うきうき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に聞き取りを行いサマリーを参考に何が必要かを見極めプランを作成しサービスに取り組むよう努めている。	これまでの様子をお聞きし今必要としている支援・サービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人が家族に近い環境で過ごして頂いている、できる方ができることを職員も一緒に、暮らしを共にする者同士の関係を築くよう努めている。	若い方も多く、出来ることをして頂き、毎日の会話やその人に合ったレクリエーションなど暮らしを共にする関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でなかなか会えない中、淋しい時は電話で話して頂くなど、家族の存在は大きな力、ご家族様にしか出来ない役割を理解して頂き、共に支えていく関係を築くよう努めている。	本人とご家族の絆を大切にしながら、自宅からお花を持って来られたのを生け花されたり、病院受診の付き添いなど共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出・面会交流が出来て無いが、面会は窓越しで行っておりどなたとも会えるようしている。地域のお話をしたりして馴染みの人や場所を忘れないよう途切れないよう支援に努めている。	コロナ禍で外出ができなかったが、ご家族とお寺など行かれたりしている。	『入所される為にお尋ねしたい事』を作成し、入居時に入居者・家族へ、これまでの居住先、関係がある方、趣味、信仰、その他要望等の記入を依頼している。ホームへ神父の来所や、趣味の材料購入に職員が同行する等、支援している。入居後に把握した情報なども同様式に追記している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうゆう)	実践状況(ユニット名: うきうき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんな仲良く生活してもらえよう職員も時々間に入りおしゃべりや手作業をしてもらっている。気の合う方とおしゃべりを楽しめたり、利用者の行動など教えて下さったり、支え合えるような支援に努めている。	気の合う者同士会話されレクリエーションや行事に参加して頂き、孤立する事が無いよう声かけを行い支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様と会った時など気軽に話しかけている。相談などあればお聞きしアドレスもしている。転所後の施設へお尋ねしたりして相談や支援に努めている。	その後の様子をお聞きしたり、終了しても会った時は声かけられる関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望・意向をお聞きし把握に努め個々に検討している。	その人の希望・意向の把握に努め支援している。難しい時は皆で話し合い検討している。	コロナ禍の影響により家族と面会する機会が減った為、家族の希望や要望等はは介護計画作成責任者が電話で聴取し介護計画へ反映している。入居者の思いや意向は職員が日々ケアを実践する中で把握し、家族とも協議しながら介護計画に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、前ケアマネさんからお聞きし情報の把握に努めている。	これまでの暮らしを本人や以前のデイサービスのスタッフさんに聞いたり把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうゆう)	実践状況(ユニット名: うきうき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェック・様子観察で体調を把握している。一人ひとり一日の過ごし方が違うので申し送りノートで全職員で把握に努めている。	一日の気付きや出来事等を申し送りし職員全員で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の担当者会議で全職員で検討を行っている。必要な時はモニタリングを行い介護計画を作成している。	担当者を決め本人がよりよく生活できる為のプランを考え毎月の担当者会議で検討している。	入居者毎の担当職員が入居者の各種情報の収集、ニーズの把握、入居者及び家族の意向・ニーズ等に沿っているか実践状況を確認し、担当者会議を通じて計画作成責任者が原案を作成し家族より同意を得ている。入居者毎の実施記録をカードインデックスに介護計画と共に挿み日々の支援に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送り、記事録が主になるが、職員間で情報の把握・共有に努め介護計画の見直しに活かしている。	個別に記録し毎日の申し送りで全員で共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに合った支援に取り組み、気付いた時に職員間で話し合い、モニタリングを行いその時々に応じたサービスに取り組んでいる。	状況に応じてモニタリングを行い一人ひとりに合ったニーズに合わせて柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうゆう)	実践状況(ユニット名: うきうき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援に努めている。	地域資源を把握し、安全で安心した暮らしを楽しめるよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医院の為納得し医院にかかれる方が殆ど、眼科受診など職員ご家族で受診対応している。適切な医療を受けられるよう支援に努めている。	本人・家族の希望を大切にし、納得が得られた医療を受けられるよう家族と共に支援している。定期受診や体調不良時は母体の医院へ受診し適切な医療が受けられるよう支援に努めている。	入居前からのかかりつけ医や専門医を継続受診する場合は、原則として家族が対応することとなっているが、状況に応じて職員による受診同行も行われている。家族が受診同行する場合は、ホームより医療機関へ必要な伝達内容を簡条書きにしたメモを渡している。訪問診療、訪問看護、歯科医の往診も随時行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で気づきを訪問看護時に相談し本人が望む医療を受けられるよう支援に努めている。訪問看護師と職員全員がつながっており何時でも相談できる体制になっている。	週1回の訪問看護時や月一回の訪問診療時に情報や気づきを伝え支援している。変化が見られた時は何時でも相談出来るよう支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ禍で面会が出来ない為、入院された時は洗濯物回収の時などに看護師に様子を伺ったりしている。	入院中は医院へ洗濯物を取りに行った時などに看護師さんに情報を聞いている。退院時は情報提供をもらい関係づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうゆう)	実践状況(ユニット名: うきうき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明をし、状態に変化があった場合ご家族等に説明し支援に取り組んでいる。	医院とご家族と話し合いながら方針を共有し支援に取り組んでいる。	ホームでの医療的ケアは現体制では難しい為、医療的ケアが必要となった場合は病院へ転所となる旨を入居時に説明し、「急性期に関する指針」につき同意を得ている。看取り期の判断は母体病院の医師が行い、家族の意向に沿いながら病院への入院や、特養等他施設への転所を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当マニュアルは貼ってあるが定期的に訓練は行っていない。実践力を身に付けていきたい。	定期的な訓練は行っていない、すぐに医院へ連絡して指示を受けている。実践力を身に付けたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に火災・水害想定避難訓練を行っている、地域の方に協力をお願いしているが訓練に参加してもらったことはない。	2か月に1回火災・災害時の訓練を行い全職員が身に付けている。地域の方にも協力をお願いしている。	昼間及び夜間想定避難訓練、及び原子力災害を想定した訓練を定期的実施している。訓練内容が分かるよう訓練時の写真を添付した記録を残している。一時避難場所や自動火災通報装置の登録先に地域住民の協力を得ている。避難訓練時に消防署の立ち会いも行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りを傷つけない言葉かけやプライバシーに配慮した対応に心がけている。	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや、プライバシーに配慮した対応に心がけている。	職員は居室へ入室する際には入居者のプライバシーや羞恥心に配慮するよう努めている。不要になった各種の記録類はシュレッダーを使用し廃棄している。接遇マナー研修への参加等、定期的な研修への参加はコロナ禍により減少している。	コロナ禍で参加ができていない研修(接遇研修等)を、次年度の年間研修計画に組み込むなど、今後、計画的に取り組むことを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうゆう)	実践状況(ユニット名: うきうき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を伺う事と、ご自分で選択が困難な方には、選択肢を絞り自己決定できるように働きかけている。	本人が自己決定出来るように働きかけているが、職員の都合の時もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の決まりは有るがペースを大切にし、希望に添った支援に努めている。	一人ひとりのペースを大切にし、都合を優先させる場合は説明して理解を頂けるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方には服など選んで頂き、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るようにしている。本人の希望でホームの職員がヘアカットしている。	コロナ禍で美容室に行けず職員がカットしている。受診など外出される時は自分で服を選び、お化粧もしその人らしい身だしなみが出来るよう支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つでありその方に合った食事形態に努めている。準備は難しいがテーブル拭きなどは全員で行っている。	会話の中で好みの物を聞き、メニューに取り入れている。片付け・テーブル拭きなど出来る事をして頂いている。	同系列の介護老人保健施設の栄養士が作成した献立表を参考に、ユニット毎に職員による手作りの食事を提供している。入居者のアレルギーや嗜好について、厨房の目につく場所に貼り出している。季節毎の行事食、誕生月の希望食、弁当を持参して近隣公園へ外出等、食事が楽しみになるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうゆう)	実践状況(ユニット名: うきうき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養に気を配り水分補給の声掛けを行い居室にペットボトルを置いている。食事量が減った時等はライフチャートに記入し体調管理に努めている。一品手を付けずに残す方・無理しても食べる方がおられ声掛けが必要。	一人ひとりの状態に合わせて食べやすく刻んだり・お粥にしている。食事量が減った時は摂取量を記入している。日中・夜間とお茶を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人でできる方は奥の洗面所ですて頂き、声掛けが必要な方はフロアの洗面台で声掛けを行いケアをしている。義歯は每晚洗浄剤に浸けている。	毎食後口腔ケアをして頂いている。声かける時もある。出来ない人は職員が介助している。毎就寝前義歯洗浄剤に浸けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツの方が多くトイレの声掛けを行う方もいる。プライドを守り安心して自信をもって生活出来るよう支援に努めている。	一人ひとりに合った下着を使用されている。本人の希望で紙パンツ・パットを使用され失敗を減らし自立支援を行っている。	トイレが各ユニット1か所の設置の為、日中も居室にポータブルトイレを置いて使用する入居者もいる。夜間帯は職員が3時間毎に見守りを行っている。家族も交え、適切なパッド、紙パンツの使用に関する検討も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量の把握は出来ている、下剤でのコントロールを行っている。	便秘にならないよう一人ひとりの排便パターンを把握し下剤でコントロールしている。水分補給・繊維の入ったお茶を飲んで頂いたり取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうゆう)	実践状況(ユニット名: うきうき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に二回の入浴で自分で服を選び楽しみにされている方もおられる。その人に合った入浴が出来るよう、体調や気分に合わせて支援をしている。	週2回曜日を決めているが、本人の体調や気分に合わせて他者と交代したりしている。一人ひとりに合った声掛けをしている。	週2回入浴を基本とし、日曜日以外は入浴することが可能である。できる限り浴槽に入り寛いでもらえるよう、浴槽手摺、滑り止めマットを使用しながら支援している。ヒートショック対策に配慮し、扇風機やハロゲンヒーターを使用している。職員が目視により脱衣室と浴室の温度を確認ができるよう温度計の設置・使用を提案した。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロー・居室の温度を管理し安心して休んで頂ける環境を整え、自由に居室で休まれている。声掛けし休んで頂く方もおられる。気持ちよく眠れるように支援に努めている。	自由に入室し休まれたり、フローのソファでうたた寝したりされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的を理解し、服薬確認はダブルチェックを行い、服薬支援と症状の変化の確認に努めている。	なかなか一人ひとりの薬の把握は難しいが理解できるよう努めている。服薬時には職員2人で日付・名前・朝・昼・夕の確認をし渡し、誤薬が無いよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除機かけやモップがけ・拭き掃除など出来る方の体調に合わせてされている。張り合い・生きがいにつながっている。	一人ひとりに合った役割を支援し、レクリエーションによる気分転換で生活に張りや活力を与えることが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうゆう)	実践状況(ユニット名: うきうき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出はなかなか出来ていない。ドライブをして外出を楽しんでもらっている。	コロナ禍で外出できない事が多いが近くにドライブに出かけたりしてる。花の水やり等で外に出れるよう支援している。	コロナが第5類に移行したことに伴い、近隣の中学校より贈呈されたプランターへの水やりや、好天時にはホーム前の神社や近くの駅まで散歩するなど外出の機会を設けている。感染対策を講じながらドライブや花見に出かけるなど入居者の気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する利用者様にはご家族に相談し所持して頂いている。管理が困難な方は事務所の金庫で管理している。欲しい物があれば担当者が買って来るなど支援に努めている。	施設で預かっているが少額を所持されている方もおられる。自分で持たれ安心されている。買い物がある時はご家族に頼まれたり、担当者が買って来るなど支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話は本人とお代わりしお話しされている。携帯電話をお持ちの方は事務所にお預かりしており、自分から掛けたいときは言ってもらえ、携帯電話をお渡しし居室でお話をされるよう支援している。	携帯電話を持たれている方もおられるがホームで預かっている。電話したいと言われる時は自由に使われる。ホームの電話でお話しされる方もいる。ご家族と手紙のやり取りをされている人もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は程よく光が入り室温換気に気を付け居心地良く過ごせるよう工夫している。	フロアで心地良く過ごして頂けるようソファの位置の工夫や室温調整・日差しをカーテンで調整し、テレビの音量も調整している。	ホームの壁面には入居者と職員が共同で制作した作品や、公民館祭りやホーム行事の写真を掲示しており、家族が来所した際に入居者の生活ぶりを確認できると好評である。朝と昼食後は窓を開閉して換気を行い、手摺、ソファ、テーブルなどの要所を次亜塩素酸水を用いて拭き掃除を行っている。備品、家具類は入居者の動線に配慮して設置している。	

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: ゆうゆう)	実践状況(ユニット名: うきうき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、 気の合った利用者同士で思い思い に過ごせるような居場所の工夫をし ている	共用空間では自分の落ち着く場所に 座り仲良くおしゃべりしたり、テレビを 見たりされている。一人になりたい時 は居室で過ごされている。	全室個室なので自由に過ごされてい る。ソファは席を固定せず好きな 場所に座れるようにしているが、殆ど 同じ場所に座られている。気の合う 者同士居室でお話されることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人 や家族と相談しながら、使い慣れた ものや好みのものを活かして、本人 が居心地よく過ごせるような工夫を している	使い慣れた物や家族の写真を飾っ たりし、居心地良く過ごせるように工 夫している。	自宅で使っていた小物やテレビを設 置し居心地良く過ごせるよう工夫して いる。	居室にある床頭台、ベット、箆笥以 外は、仏壇、テレビ等、本人の馴染 みの物や大切な物が持ち込まれ、 家庭的な雰囲気を継続できるよう支 援している。入居者が入口ドア上部 に指を挟まないようクッションを設 け、怪我防止に配慮している。入居 者が思いおもいに自由に過ごせる 居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できるこ と」「わかること」を活かして、安全か つできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	分かり易いように居室の入口に名前 を大きく貼ったり、トイレの表示も目 線に合わせて表示している。体調が すぐれない方を一番近くの居室へと チェンジしたり、行動介助の為コール マットを使用するなど工夫している。	押し車を使用されている方がおられ るので、押し車の位置など安全に過 ごせるように気を付けている。		